

【評議員会議事録】

日 時：日 時：2007年1月27日（土）11：00～15：00

場 所：国立天文台南研大会議室

出席者：安東，家，井上，梅村，大橋，岡村，郷田，佐藤，須藤，谷口，中川，宮川，山本，渡部 以上14名

有効委任状提出者：海部，柴田，観山 以上3名

欠席者：池内，永田 以上2名

ほかに理事会から土佐理事長，柴橋・國枝副理事長，花岡・高田・北本・田村理事，また河合前研究奨励賞選考委員長，および東條事務長が出席した。

議事に先立ち，先日他界された小杉氏に対し黙祷を捧げ，次いで議長に岡村氏，署名人として家，郷田両氏を選出した。

報 告

1. 前回議事録の確認

前回の議事録について資料1に基づいて報告があり承認された。

2. 創立100周年記念関係

100周年記念出版について岡村氏より口頭で報告があった。既に第1巻について1月12日に東大において記者会見を行い，1月14日に配本が開始された。現在迄に毎日新聞，科学新聞，日刊工業新聞が記事して取り上げたとのこと。売れ行きは好調であることも併せて報告された。

100年史編纂について花岡理事より口頭で説明があった。原稿は95パーセントが既に集まり，作業は順調に進行中であることが報告された。

100周年記念切手について花岡理事より口頭で説明があった。2008年3月21日発売開始予定であり，今後関係者とデザイン等について詰めを行ってゆく予定であるとのこと。

学会logoについて北本理事より口頭で報告がされた。月報1月号にlogoの公募記事を掲載したが，宣伝についてはその他の方法も併用しながらもう少し大きめにやることを予定している旨説明があった。審査員についてもデザインの専門家1名に既に打診し内諾を得ていることもあわせて報告があった。

3. 衛星設計コンテストについて

北本理事より，衛星設計コンテストに今後は共同主催者として加わるとの提案があり，既に理事会において承認を得た旨報告があった。これに伴い，実行委員，審査委員，企画委員を天文学会から出す必要があるが，理事会で協議の上，決定したいとの報告があった。今後も継続していく上で，委員会などを立ち上げるなどの対応が必要であろうとの認識も示された。

4. Asian-Pacific Journal WG からの報告

花岡理事より口頭で現状の報告が行われた。AsPJについては日本としては現在は参加に消極的であり，PASJの強化に注力することを考えていること，AsPJとは別立てで，インド・中国が組んでジャーナルの立ち上げを行う動きがあり，韓国もそれに参加する意向であること，事態が流動的であるのでこのWGは存続させ，各国の動きを注視しながら状況の変化には即座に対応できるようにしている旨，報告された。

5. 次回以降の年会について

花岡理事より資料2に基づいて（後ほど資料の追加配布）次回以降の年会の開催予定について報告が行われた。

2007年春季に東海大学で行われる年会については準備は順調であること，公開講演会に引き続いて，学術会議の「太陽系天体の名称等に関する検討小委員会」における決定を受ける形で，新しい太陽系の定義等に関する講演を1つ追加する予定であることなどが紹介された。渡部氏から補足説明として，あと1週間程度で小委員会からとりあえずの提案が出ること，それに基づいたパブリックコメントを関係各学会に求める予定であることが報告された。

2007年秋季年会は岐阜大学で9月26～28日に開催予定で、準備は順調であること、2008年秋季年会については岡山理科大学において9月11日～13日開催の予定で話を進めている事、2009年春季年会については大阪府立大学に決定したことがあわせて報告された。

また、2009年秋季年会について石垣島における開催の可能性を検討中であるが、諸般の事情により現状では開催は困難であることが理事会でも認識されており、別候補地などがあれば推薦をお願いしたい旨、あわせて報告された。

6. 日本天文学会事務処理規程及び日本天文学会経理規程

北本理事より、資料3、及び4に基づいて、昨今の諸般の事情により学会の事務処理規程及び経理規程の作成の必要性が報告され、同時に両規程案が示された。これらの案については既に理事会において承認された旨も報告された。規程の改廃については理事会承認事項とする案。詳細について疑問点等あれば理事会に連絡することとした。

7. 年会中の役員・委員の旅費について

北本理事より口頭（後に追加資料配付）において、学会から実費相当額の旅費の支給を年会運営に大きく関係する学会役職者に限り可能にしたいとの提案があり、理事会において既に承認された旨、あわせて報告された。なお、学会全体として旅費規程をもつべきであるとのコメントがあり、今年度中に対応を検討する旨了解された。

8. 学術交流費の「足切り額」の改訂

花岡理事より、学術交流費（賛助会員費からの年会参加のための学生旅費の補助）について口頭で報告があった。2006年度の決算において賛助会員の会費に対して旅費支給額が大幅に下回るようになった事が報告され、とりあえずの対応として現行まで2万円だった「足切り額」を1万5千円に減額し様子を見る事が提案されて了承された。背景には院生に対する旅費の支給についてチャンネルが増加したことなどがあげられる。また安東氏より若手の会代表として補足説明があり、この減額料は根拠のある計算に基づいたものであり、財政負担を招くような恐れはないことがあわせて報告された。

9. 2006年度早川基金採択一覧表

花岡理事より資料5に基づいて、2006年度早川基金についての採択一覧が示された。申請数については昨年度よりは回復したが、今後、支給の対象を航空費のみならず滞在費等にまで拡張するかなどについて検討を迫られていることもあわせて報告された。

10. PASJ編集委員会からの三つの提案

花岡理事よりPASJ編集委員会からの三つの提案について資料6に基づき報告が行われた。電子版PASJのアクセス制限解除についてはとりあえず1年に限って制限を解除し様子を見ること、掲載料の割引価格については、今後筆頭著者には限らず共著者に正会員が入っていれば認めるように改める予定であること、欧文研究報告論文賞の副賞として次論文についての掲載料の無料化を行う予定であることの3つの提案が行われ、了承された。

11. 学会事務所パート職員の補充について

花岡理事より昨年度末に学会総務担当の2人の職員が退職したため、現在新しく職員を募集中であることが報告された。2月中旬位に採用決定にこぎ着けたいとのこと。

12. その他の報告

○ (1) 学振の「数物系科学の学術動向調査報告書」

家氏より日本学術振興会がとりまとめている「我が国における学術研究の動向について」（資料7）に基づいて説明があった。目的としては将来にわたっての学術財政の新しい発想の種を提供したり、学術行政をより良いものにするための資料にするべく、数物系の研究環境の現状、将来の方向性などを現場の声をもとに作成することで、天文関係については、約20人ほどの方々に意見を伺うことでとりまとめを行ってきていることが報告された。数項目について記述等に問題点が指摘された。今後も行政等への働きかけを続けていく上で資料等の編集に協力をお願いしたい旨、要請があった。

- (2) 太陽系天体の名称等に関する検討小委員会からの提案
渡部氏より学術会議の「太陽系天体の名称等に関する検討小委員会」において議論して来た新太陽系定義等に関する提案について、近日中に電子メールを通じて関係学会に対してパブリックコメントを求めることが予定されている旨、口頭で報告があった。
- (3) 科研費の利用の仕方について
家氏より、科研費の繰り越しが従来よりも随分とやりやすくなった点、及び実績報告書提出の期限が4月末から5月末になった点が報告され、現在よりもより年度末近くまで科研費の執行ができるようになるなど、執行の自由度が高まってきているので、そのことについて周知徹底してもらいたい旨、口頭で要請があった。

議 題

1. 2006年度各賞受賞者の決定

(1) 天体発見賞・天体発見功労賞・天文功労賞

山岡天体発見賞選考委員会委員長の代理として渡部氏より資料8-(1)（後に一部配付資料追加）に基づいて、選考委員会において天体発見賞候補者3氏12件・天体発見功労賞2氏2件・天文功労賞の長期的な業績1件、短期的な業績4氏2件の推薦を下記のように決定したとの報告があり、これを承認した。

天体発見賞 鈴木章司（1件）、西村栄男（1件）、板垣公一（10件）の各氏

天体発見功労賞 山本 稔（1件）、板垣公一（1件）の各氏

天文功労賞

（長期的な業績）藤井 貢氏

（短期的な業績）成見博秋、金井清高（1件）、多胡昭彦、櫻井幸夫（1件）の各氏

(2) 研究奨励賞

河合前研究奨励賞選考委員会委員長より資料8-(2)に基づき、12月26日に東工大にて開催した選考委員会において8件8名の候補より下記の研究奨励賞の候補3件3氏の推薦が決定されたとの報告があり、これを承認した。

研究奨励賞 青木和光、秋山正幸、戸谷友則の各氏

選考の際の議論として、河合委員長より35歳という年齢の上限に近い人ばかりであるのが目立つことに対して、本奨励賞が若手に対する奨励という形になっているのであろうかという意見があったとの報告があり、選考委員のメンバーである須藤氏より補足として、受賞者が複数人になってだいぶ助かっており、今後とも多くの推薦をお願い致したい旨コメントがあった。

(3) 林 忠四郎賞・欧文研究報告論文賞

林 忠四郎賞選考委員会委員長の代理として佐藤氏より資料8-(3)に基づいて、選考委員会において、林 忠四郎賞については6件の候補から下記の1件、欧文報告論文賞については6件5編の候補から同じく下記の2編の推薦を決定したとの報告があり、これを承認した。

林 忠四郎賞 井田 茂氏

欧文研究報告論文賞 Miyazaki et al. 54巻, 833-853頁, 2002年, および Makishima et al. 53巻, 401-420頁, 2001年の各論文

尚、井田氏の推薦文に関して一部加筆修正が必要である旨指摘がありました。

また、選考委員会において議論となった事柄について説明があり、林 忠四郎賞の位置づけについて、従来の選考委員会ではおおむね中堅の人に与えるというものであるが、天文学会の最高賞としての位置づけをもたせようとする意見もあるとのコメントがあった。それについての議論の中で天文学会においては、賞の数が他学会に比べても少ないのではないかとのコメントがあり、主な学会の賞について調査をする必要性が論じられ、理事会において各賞の位置づけや新設等を考えていってほしい旨要請があった。なお、過去においても同様の議論があったはずで、それらの背景も含めて話を進めるべきであるとのコメントがあった。

2. 2006年度事業報告書案

花岡理事より事業報告書案について資料9に基づいて説明があり質疑応答の後、承認された。

3. 2006年度決算報告書案

北本理事より決算報告書案について資料10に基づいて説明があり質疑応答の後、承認された。

4. 2006年度監査報告

花岡理事より、資料11に基づいて、2007年1月6日に監査が実施され、結果正当であることが認められた旨の報告があり、承認された。

5. 2007年春季年会議題等

花岡理事より資料12に基づき2007年春季年会議題等について説明があり了承された。

6. 創立100周年記念年会について

柴橋副理事長より創立100周年記念年会に関する検討の現状について口頭で説明があった。年会は2008年3月24日（月）～27日（木）の4日間の予定で代々木オリンピック記念青少年センターにおいて開催の予定、3月23日に祝賀記念行事及び祝賀会の開催（記者会見もこの日）、3月29日または30日に公開講演会を行うことを考えている旨報告され、了承された。

7. 会費未納による除名者名簿

花岡理事より会費未納による除名予定者リストが示され、承認された。除名予定者に対して働きかけることにより、会費を納める形で退会という形をとる方も多くいるとの指摘があり、除名予定者が周辺にいる場合には声をかけるなどして頂きたい。

次回開催は春季年会中の3月29日の昼休み、次々回開催は7月7日（土）11：00から（場所未定）と決定した。

2007年2月22日

議長 岡村定矩

署名人 家 正則

署名人 郷田直輝